児童発達支援　保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 5年 3月10日

事業所名：つばめ療育館

保護者等数（児童数）　35名（37名）、　回収数　33名、　割合　94.3%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	29	3	1		・小学生がいる時は、活動が制限されているように思います。 ・放デイの子供達と一緒になる時（長期休暇等）は、少し狭く感じる時もあります。 ・運動スペースが、もう少し広いといいと思います。 ・あまり広くないなかで、上手く活動スペースが確保されていると思います。 ・運動の時に、直前のマッサージで寝てしまった子が端に寝かされており、限られたスペースなので仕方ないのですが、運動の時にどうしてもぶつかってしまいそうになることがあり、見ていて少しハラハラすることがあります。 ・仕方のないことだとは思いますが、小学生の子たちが学校がお休みのときになると、活動スペースが限られるので（活動内容を工夫していただいているのは、すごく伝わってくるのですが）やはり、安全面を考えて、もう少しスペースがあった方が良いかなと思います。	・活動に合わせて、場所を変えるなどの対応をしています。利用者によっては、広い場所で走りたくなることもあるので、それも踏まえ設定をしています。 ・活動場所を児童発達支援と放課後等デイサービスとで分け、それぞれの効果的な療育活動に適した環境を用意しています。 ・90分プログラムの運動の時に、利用人数によっては2班に分けて実施するなど広い空間を確保するように工夫しています。 ・学校の長期休業中は、活動時間が重複し、玄関、トイレ、静養室が共有であることや室音の漏れ等で支援環境に影響が生じます。このため、放課後等デイサービスに外出活動などを取り入れ、事故なくお互いの活動に支障が生じないように配慮しています。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	30	1		2		・職員の休暇等で若干手薄になることがあります。補充できる職員体制の確保に努めます。 ・保健師である発達支援コンサルタントから定期的に専門的な評価を行い、併せて技能訓練担当職員（作業療法士等）が中心になって、個々の課題に沿った支援を提供しています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	31			2		・利用者が分かりやすく、活動しやすい環境となるよう、今後も検討を続けていきます。 ・基本的に支援室は固定し、1日のプログラムに集中できる環境を設置しています。 ・クールダウン等が必要な場合は、静養室において個別対応を行っています。その際、保護者には必ずその都度情報伝達を行っています。

環境・体制整備	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	32	1				・今後も消毒等を含め、清潔で過ごしやすい環境設定に努めていきます。 ・広い部屋に間仕切りを用いて落ち着きのある空間作りをしたり、専門の用具室を設け、随時必要な用具の出し入れを行って集中力の維持等に努めています。 ・利用者が間仕切りを動かしたり、倒したりしないように、全職員で注意を払っています。 ・支援室の衛生管理は、徹底していきます。毎日の清掃はもちろんのこと、支援室や用具の消毒を行っています。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	31			2		・契約時やモニタリング時等でニーズや課題をお聞きし、児童発達支援計画に反映させるように努めています。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	30			3		・ガイドラインに沿った児童発達支援計画書の支援内容にしています。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	31	1		1		・担当する職員は、児童発達支援計画の達成目標を熟知し、日々のサービスを提供しています。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	30			3		・利用者の年齢や能力に応じた個別支援に心がけています。 ・具体的な改善効果に着目し、たとえば、変化がみられないようなら、課題の着眼点を変更しています。 ・個々の目標を達成するためには、成功体験の積み重ねが大切です。できるだけ固定化しないように、興味のある活動を盛り込みながら柔軟に対応しています。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	16	4	2	11	・そういう活動は、そもそもあるのでしょうか？ ・自分の子供は、保育園を行っているので交流はあるが、療育と他の園との交流はない気がする（分からない） ・午前中に保育園の活動に参加した後で、療育に行けているのは、いいと思う。	・サービス担当者会議等で保育所や幼稚園に伺って状況共有をさせていただいています。 ・個人差はありますが、障害のない子どもとの交流については、現利用者の現況等で判断すると、必要性を感じていません。 ・社会性の前に自立力向上の課題が優先すると考えています。たとえば、散歩で公園等に出掛け、そこに来ている子どもたちと自然な形で触れ合うことができるような場面などから取り入れていければと考えています。

適切な支援の提供	⑩	運動（感覚統合）は安全面に配慮された上で楽しく活動でき、かつ身体機能が改善されたか	30	3			・通所当初より、長い時間うつ伏せが出来るようになった（可動域が広くなったような気がする） ・楽しみながら、安全に活動出来ていると思いますが、身体機能が改善されたか、という面ではまだあまり分かりません。継続して活動して、頂けたらと思います。	・ご家族とできるようになったことを共有しながら、今後も支援をさせていただきます。 ・活動に必要な専門遊具を使用することのリスクを想定し、事故防止に努めています。 ・「順番を守る」「利用者の特性に応じる未然防止体制」「遊具の出し入れによる安全スペースの確保」等、徹底して安全面を重視しています。 ・「始まりの会」「身体調和支援（マッサージ）」「運動課題」「個別課題」「お帰りの会」と流れていきます。運動課題（感覚統合）は、土台となる身体を調和した後に行い、必要な感覚を獲得しやすくなる等の改善効果を高めています。実績として、改善ケースが増えてきています。
	⑪	机上課題はその子どもに見合った内容で用意され、楽しく意欲的に取り組めているか	32	1			・子ども本人が、あまり卓上課題が得意ではないので、楽しいかどうかは？です。そんな気持ちの中でも、無理なく子どもの”頑張る力”を引き出す指導をされていると思います。 ・いつも楽しそうにしています。	・子どもたちが意欲的に自分から取り組みたくなるような課題を今後も設定していきます。 ・利用者の年齢や能力に応じた机上課題に心がけています。 ・具体的な改善効果に着目し、たとえば、変化がみられないようなら、課題の着眼点を変更しています。 ・個々の目標を達成するためには、成功体験の積み重ねが大切です。できるだけ固定化しないように、興味のある活動を盛り込みながら柔軟に対応しています。
	⑫	身体調和支援（マッサージ）で子どもの変化が見られているか	19	7		7	・通所当初より、長い時間うつ伏せが出来るようになった（可動域が広くなったような気がする） ・親も勉強出来るので、家でも実践しています。 ・身体能力は、始めの頃と比べたら、信じられない位、高くなっています。 ・マッサージ中、なかなかじっとしていられず、正しい体制・順序でマッサージを受けることができず、先生方にはお手数をお掛けしています。こちらも、まだ体の緊張や過敏が見られるので、継続してマッサージしていただけたら、と思います。自宅でも可能な限り、行います。	・指導員同士でも研修を行い、自己研鑽に努めています。マスタートレーナー取得者も増え、今後は同行されているご家族にも、より正確な技術をお伝えできればと考えています。 ・身体調和支援（マッサージ）により、発達の土台となる生活しやすい身体づくりを行っています。これは、運動課題（感覚統合）、個別課題の改善効果を高めることに繋がります。繰り返すことで脳の発達を促し、運動機能、認知・言語機能、社会性の改善を目指します。
保護者への説明等	⑬	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	31	1		1		・見学時や利用開始の契約時に、丁寧に説明を行っています。
	⑭	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	33					・ガイドラインに基づく支援内容を、設定しています。

保護者への説明等	⑮	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	20	3	3	7	・できることなら、ストレスをため込んでいる保護者を支援して頂きたい。 ・どれがその内容になっているかが、分かりません。 ・家でどんな風に接したり、効果的な声掛けなど、まだ良く分からないです。	・ご家族向けの研修会(就学前等)について、積極的に参加していただけるよう、お知らせしていきます。 ・利用時に同行いただける保護者には、身体調和支援（マッサージ）や食事の仕方、家でもできる運動などを指導しています。 ・同種の課題のある利用者の保護者を対象に、発達支援コンサルタントを講師とする定期的な勉強会を計画しています。
	⑯	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	32	1				・困ったこと等、いつでもお話を伺えるよう努めていきます。メールなども活用しながら、ご家族との情報共有に努めます。 ・保護者とは、同行時にお話をさせていただいたり、連絡帳、HUGマイページ、電話、メール等で利用時の状況や課題について随時連絡を取り合っています。
	⑰	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	29	1	2	1	・1～2カ月に1回程度、個別に面談する機会を作ってほしい。	・困ったことや疑問点など、いつでもお聞かせください。その場での回答が難しい場合も、職員間で共有し、より良い対応方法をお伝えするようにしています。 ・必要時には、医療機関やその他関係機関への情報提供を行っています。 ・モニタリング時や送迎時に、保護者からのお悩みや課題の相談に対しては、個人で判断せず、チームでの方針のアドバイスをお伝えすることを原則としています。
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	8	5	13	・同じ利用日のお母さん達とは、顔見知りになり挨拶等はするが、会などには参加したことはない。 ・コロナで難しいのかもしれませんが、他の親御さんとの交流があったら、意見交換が出来たりして、いいのかなとも思います。	・特に父母の会や保護者会等の開催はありません。今後、発達支援コンサルタントの助言をもらえる意見交換会等を企画し、懇談の場を予定しています。 ・年長児の保護者を対象に、発達支援コンサルタント及び地元教育委員会指導主事を講師に、就学前の情報交換会を継続していきます。
保護	⑲	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	31	1		1	・明日、昨日などの理解がなく、いつものことも”今日という”と相談したところ、発達時期を示したうえで、すぐに支援の一つに盛り込んでいただきました。	・速やかに事業所内で検討して対応しています。 ・保護者からの相談や申し入れに対しては、個人で判断せず、チームでの方針のアドバイスをお伝えすることを原則としています。 ・モニタリング等の機会や、日常的な相談にも迅速にお応えするように心がけています。

護者への説明等	⑳	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	32	1			HUGをこまめに確認すればいいのですが、身体的なことや何か急ぎ伝えたいことは、連絡カードにも記入してもらえると助かります。	・保護者には、口頭で伝わりにくい場合は、メールでのやり取りを行っています。 ・利用者には、絵カード等を用いて視覚からの情報伝達を行っています。	
	㉑	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	31	1		1	・HUGで毎回、何をしたか写真付きで分かりやすく報告してくれて、安心して利用できる。	・毎月の会報「おたより」や保護者のHUGマイページを活用し、近々の情報をお伝えしています。 ・ホームページで講演会の開催などを発信しています。	
	㉒	個人情報の取扱いに十分注意されているか	31			1		・個人情報取扱規程に基づき、施設で保管している個人情報については厳重に管理し、内部研修会や朝のミーティング時にも取り扱いについて注意喚起を促しています。	無記名1
非常時等の対応	㉓	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	16	4	1	4	・コロナなどの感染症の対応は、おたより等でお知らせしてもらっているが、防犯・緊急時のマニュアル・訓練等はわからない。 ・コロナの事もあり、どの程度の体調不良で休ませた方がいいかなど、いまいちよく分かりません。	・マニュアルは作成していますが、保護者に対しては、マニュアルを特に周知はしていません。 ・所内に要点の掲示やマニュアルを閲覧できるようにしています。	
	㉔	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	2	2	15	・行われているか分からない。	・年2回、地震、火災に対する避難訓練を、隣接のつばめ療育館と同時に実施しています。	
満足度	㉕	子どもは通所を楽しみにしているか	30	3			・今日は、学校？（療育館）やったー！と、行く日を楽しみにしています。 ・先生方には、苦手な物事に対して細かな配慮をしていただき、とても感謝しています。本人に合った対応をしていただき、出来ることも増えてきています。ただ、急な激しい動きや大きな音・大きな声が苦手なので、利用日に上記のような状態が起こると「お家に帰る」と言い、次回利用日を嫌がったりすることが、度々あります。行ってしまえば、割と活動には参加出来ていると思いますがストレスもあり、その日の睡眠や翌日の活動にも影響が出ることも多いので、親として、どのように対応してあげた方が良いのか、考えているところです。	・まずは、嫌がらないでご利用いただくことからと考えています。ただし、発達支援プログラムには、自立力の向上を目的とする意味合いが込められているため、「楽しんで…」が目的ではないと捉えています。 ・保護者との相互理解の下で、共に「やりがい」を感じながら通所いただきたいと思います。	

満足度	㉖	事業所の支援に満足しているか	33				・いつもありがとうございます。 ・プランの作成時に、丁寧に保護者に聞き取りをして下さり、プランにも希望を反映させて下さるので、安心して利用する事が出来ています。 ・とても満足しています。療育館に行くことになり、すごく成長しました。 ・療育館に通い、運動面、気持ちの面など、本当にたくさんの成長を感じています、ありがとうございます。	・「生活しやすいからだ」は、すべての基盤であると考えています。ご家族と情報共有をしながら、お子さんの育ちに寄り添い、支援をしています。 ・全てのご利用者から満足いただいていることは、有りがたい限りです。より満足いただくためには、子供たちの「改善」の積み重ねと認識しています。 ・発達支援は、園や学校で普通に集団活動などができるように自立力を向上させるサービスだと言えます。 ・「障害を負わない」ための予防サービスでもあり、早期発見・早期支援の実現が重要です。医療、保健、保育、教育と発達支援事業所が、役割を認め合い繋がっていくことを果たすためにも質の向上は命題と考えています。

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。